

大橋川周辺まちづくり基本方針

平成 1 8 年 1 2 月

中国地方整備局

島 根 県

松 江 市

「大橋川周辺まちづくり基本方針」について

「大橋川周辺まちづくり基本方針」（以下、「基本方針」）は、斐伊川水系全体の治水の歴史を踏まえ、松江を美しい景観や伝統的な歴史・文化を備えたまちとするために、大橋川改修を含むまちづくりの基本方針として策定するものです。

「基本方針」は、これに基づいて策定される「大橋川周辺まちづくり基本計画」（以下、「基本計画」）の基礎となります。

「基本方針」と「基本計画」に基づき、「まちづくりと一体となった大橋川改修計画」と「大橋川改修と一体となった背後地整備計画」を策定します。

さらに、「基本方針」に沿って、大橋川周辺河川軸の「景観計画」を策定します。

また、「基本方針」および「基本計画」の内容は、「斐伊川水系河川整備計画」並びに「市街地整備計画」に反映します。

大橋川周辺の現状

斐伊川水系の宍道湖と中海を結ぶ大橋川を中心に発展してきた松江のまちづくりは、斐伊川水系の治水と深く関わっています。斐伊川水系の治水対策では、上流の尾原・志津見の2つのダム建設、斐伊川放水路の建設が進むなか、大橋川の改修が課題となっていました。大橋川の改修は、大橋川から市内への越水対策のためであり、市内の河川や堀川等の内水対策と一体のものとして進めるものです。しかし、改修は、松江大橋周辺の上流部、中の島と中州の位置する中流部、朝酌川との合流部から中海に至る下流部で、それぞれの地域の景観・環境などに大きく影響する可能性があります。そこで、どうすれば、景観・環境の維持・向上と水害に強く安全で安心なまちづくりとを共に実現することができるかということが課題となっています。

まちづくりの基本的な考え方



八雲立つ出雲の国の水都、松江のまちづくりは、まちと人と水が一体であるという思いのもとで進めます。

まちづくりでは、出雲神話やたたら製鉄をはじめとする出雲文化を形成してきた斐伊川流域全域を視野に置くとともに、松江から望むことのできる大山、周囲の山並み、穴道湖の夕景を構成する要素など、松江らしさを醸し出すすべての景観要素に対して深く配慮します。

古代の神々の息づく自然・風土、松江藩時代の歴史・文化等を踏まえ、季節の移ろい、一日の変化の美しさをこのまちに住む人々とここを訪れる人々がともに喜び、分かち合えるまちづくりをめざします。

河川・水路・農地・湿地（湿性地）が織りなす環境、多様な水辺や伝統的な街並みを含む景観、歴史・文化とそこで営まれる暮らしを地域にふさわしい形で保全・継承します。失われたものを再生し、また、新たな価値を創出します。

景観については、まちづくりに関わる制度面も含めて検討を進めます。

なお、ここでいう「景観」や「景」には、視覚的な経験だけでなく、五感全体で感じることのできる風景を含みます。

※社寺については出雲の国「社寺縁座の会」20社寺及び大橋川周辺の主な神社を記載

大橋川周辺のまちづくりのための地域区分

大橋川周辺を上流部、中流部、下流部に区分し、それぞれの特性に応じた整備を行うと同時に、全体の統一と調和を図ります。その際、大橋川だけでなく、大橋川から望むことのできる景観全体に最大限の配慮を払いつつ景観形成を行います。この場合、「景観形成」には、景観の保存、保全、創出、再生を含みます。

上流部は、人びとが現在より一層、水に親しめるような水辺を創出するまちづくりを「親水の景づくり」とします。中流部は、水郷としての河川・水路・農地・湿地（湿性）が織りなす環境と水景観を大切に、人とさまざまな生物がゆったりと享受できるような空間の整備を「遊水の景づくり」とします。下流部は、地域に伝えられる水に関わるさまざまな歴史・文化と自然環境の価値を認識し、後世に伝えてゆく整備を行い、「敬水の景づくり」とします。

3つの地域のそれぞれについて、景観と環境の保全・向上のための諸条件を明らかにします。また、その諸条件を踏まえたまちづくりと、それと一体になった河岸の整備をめざします。

上流部、中流部、下流部の3つの地域のそれぞれについて、地域に積み重なった歴史的な遺産を未来に受け継ぎます。保存あるいは保全すべきものについては、その考え方を明確に示し、それぞれの特徴に応じた適切な方法を用います。

親水の景づくり

松江の魅力である水辺空間との一体性・近接性を活かしながら、洪水のリスクを軽減するよう、創意工夫します。

宍道湖・大橋川・松江大橋のもっている静かな佇まいを大切にします。

また、人びとが集い、行き交う、新しい活気のあるまちを創出します。

大橋川周辺のまちづくりによって、風情のあるまちとにぎわいのまちの調和を実現します。

遊水の景づくり

河川・水路・農地・湿地（湿性）が織りなす環境を保全し、また、環境学習の場としてなど、その活用を図ります。活用法については、さまざまな意見を踏まえて、最善の方法を検討します。

なお、河岸は、治水上有効な遊水機能の保全にも配慮し、景観と自然環境を損なうことのないようにします。

敬水の景づくり

古代から続く歴史・文化の体験の場として位置づけ、その価値を認識して、この地域にふさわしい景観や川沿いの自然環境を保全・創出します。

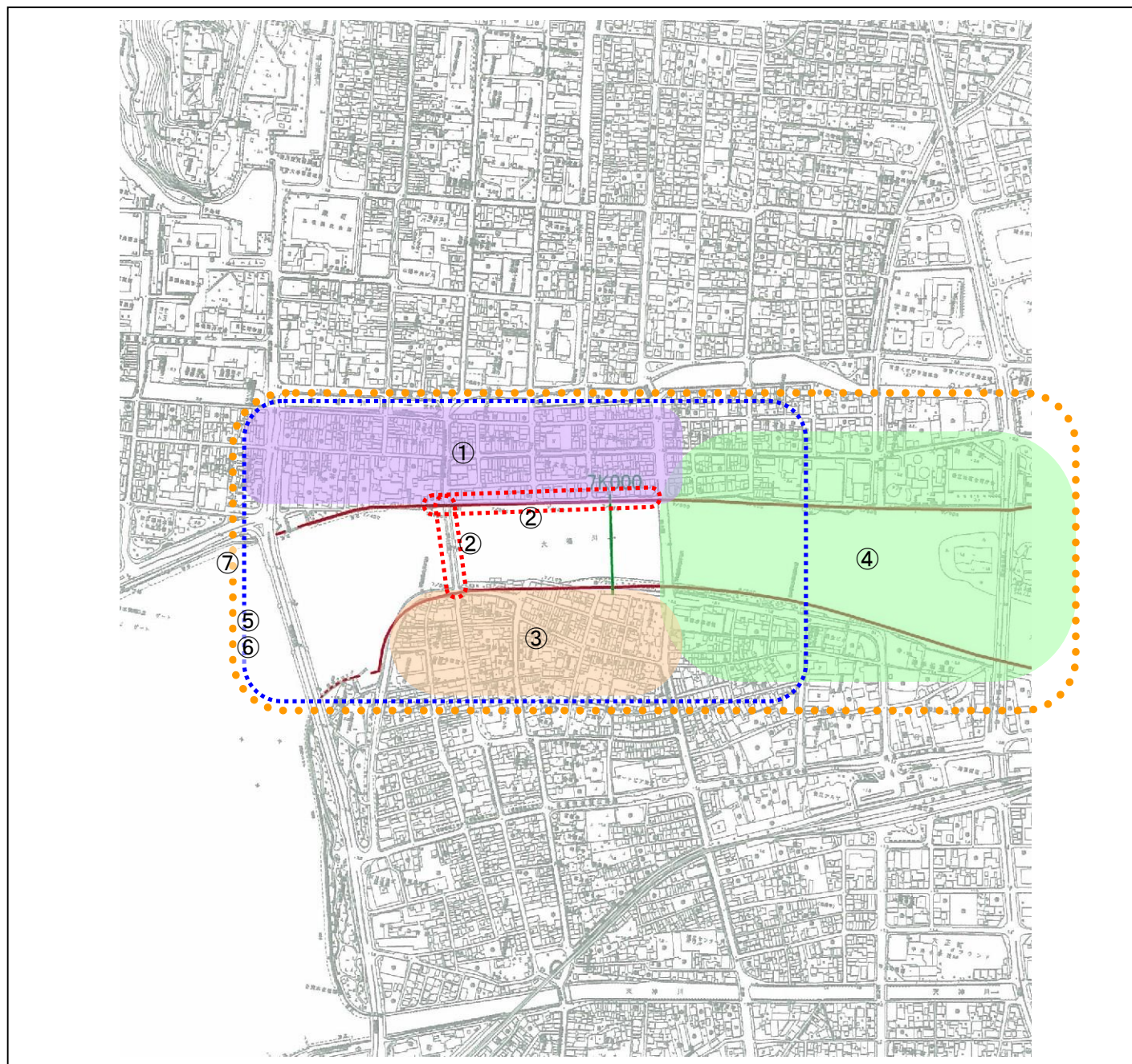
整備の影響を受ける地域社会の維持・活性化に最大限の努力を払います。



上流部の基本方針

親水の景づくり

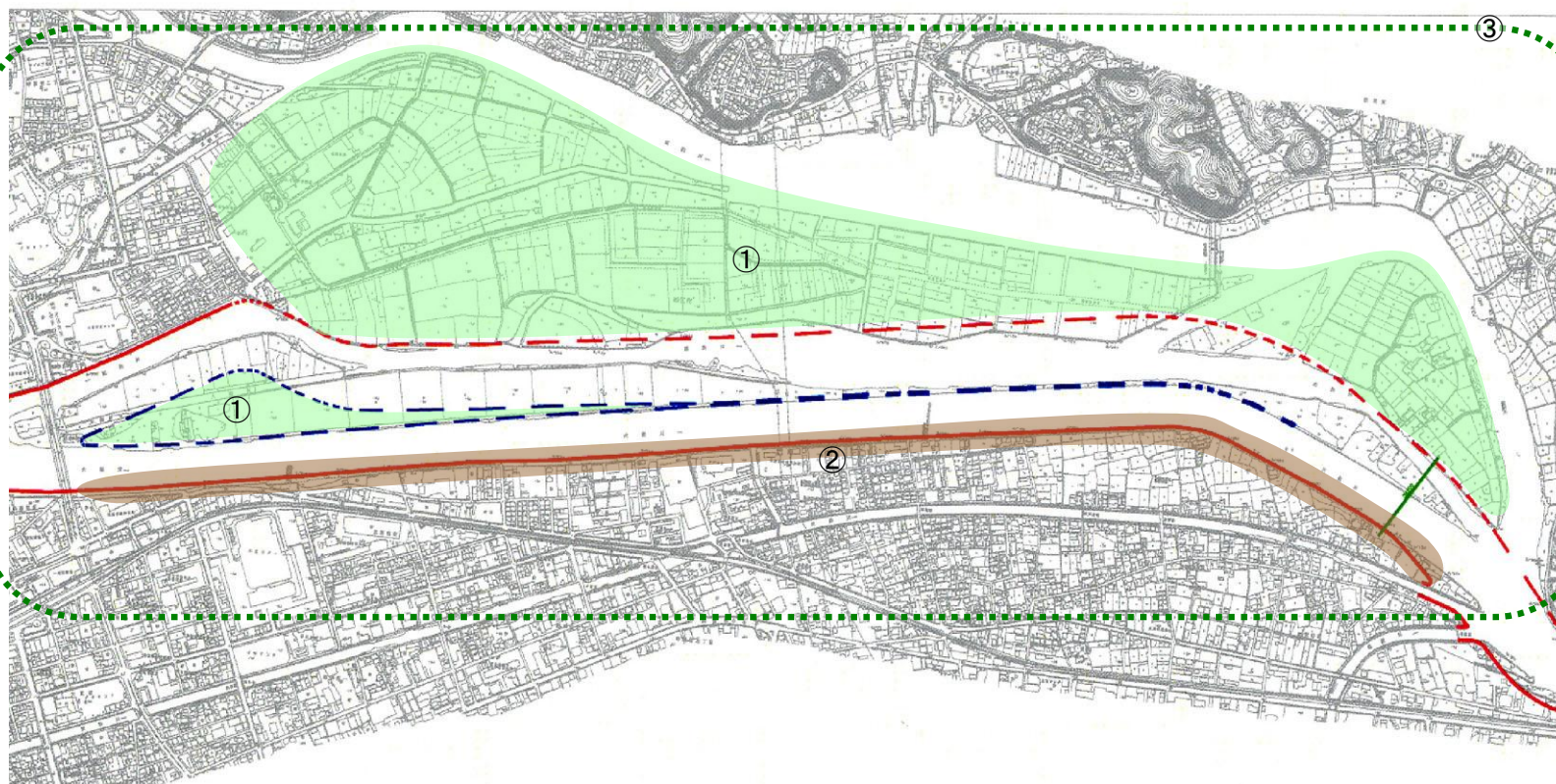
- ①城下町の歴史や文化を感じさせる佇まいとにぎわいに配慮したまちづくりを行います。
- ②松江大橋や柳並木の落ち着いた風情を損なうことのないまちづくりを行います。
- ③城下町の歴史や文化を感じさせる佇まいと都市的なにぎわいの調和を実現する新しいまちづくりを行います。
- ④生活の佇まい、都市的なにぎわいと憩い、中流部の水郷風景のうるおいを大切にするとともに、それらの間のコントラストに配慮したまちづくりを行います。
- ⑤水と人、川とまちの近さを活かしたまちづくりを行います。
- ⑥国際文化観光都市松江に相応しい優れた視点場の保全と創出を行います。
- ⑦それぞれの地域の間での調和とつながりに配慮します。



中流部の基本方針

遊水の景へVS

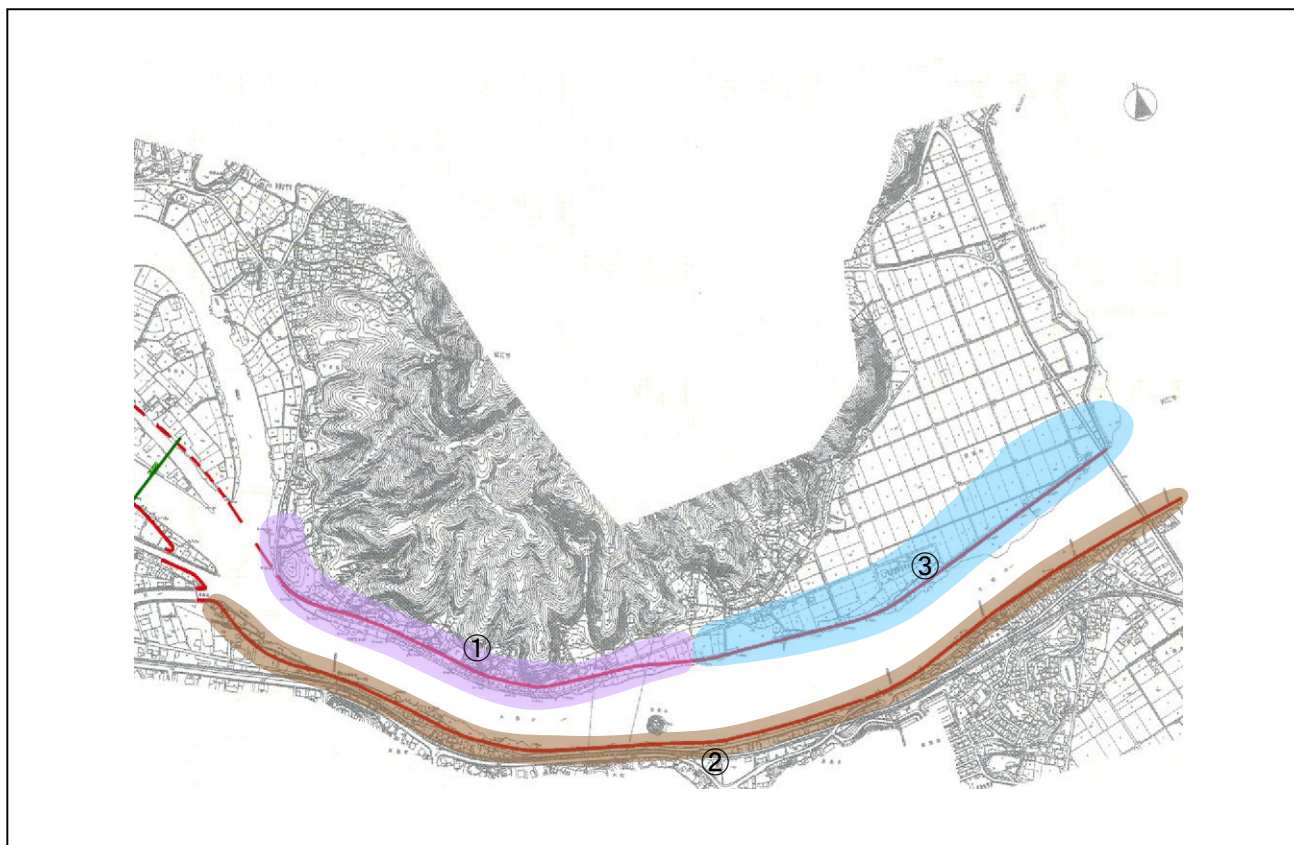
- ① 河川・水路・農地・湿地（湿性地）など、自然豊かな水郷を活かした地域づくりを行います。
- ② 人々の生活と川とのかかわり（シジミ採り、魚釣り、散策等）に配慮した河岸づくりを行います。
- ③ 嵩山、和久羅山などを望む、のびやかで広がりのある景観を保全します。



下流部の基本方針

敬水の郷へ

- ①古代より受け継がれてきた地域の歴史・文化を学び、敬い、後世へ伝えていけるような河岸と背後地の整備と景観形成を行います。
- ②人々の生活と川とのかかわり（矢田の渡し、魚釣り、散策等）に配慮した河岸づくりを行います。
- ③河川・湖・農地・湿地（湿性地）などが織りなす豊かな自然を活かした河岸地域とします。



今後の進め方

大橋川周辺のまちづくりは、大橋川を中心とし、市内の河川や水路を含む多様な水辺の整備および関連地域の整備とともに進める、全国に比類のないものとなります。そこで、前例にとらわれず、創意工夫を行い、後世に誇れるような事業をめざします。

とくに、これまで対立的であった「治水」と「景観・水辺の利活用・環境」の関係をより創造的なものに転換します。この点では、「大橋川改修に関する環境検討委員会」の検討を踏まえつつ、調整を図りながら、事業を進めます。

長い時間を要するまちづくり事業では、事業の継続性が重要です。計画段階から、設計、コスト・スケジュールの管理、施工と品質管理、評価、維持管理に至るまで、松江市民および斐伊川水系流域に暮らす人びと、その他、松江のまちづくりに関心をもつすべての人びとが適切かつ十分な情報を手にいれることができ、また、意見を述べるようなしくみを整備し、活用します。

計画の初期の段階から合意形成のプロセスを取り入れます。合意形成のプロセスのさまざまな段階で情報を公開し、できるだけ多くの人びとの参加のもとで、まちづくりの目標づくり、具体的な設計、コスト・スケジュールの管理、施工と品質管理、評価、維持管理等について、関係者による合意形成を図ります。

事業の直接的な影響を受ける人びとに対しては、十分に配慮します。

まちづくりに関わる市民と行政・河川管理者は、季節や時間の移ろいを感じることができる城下町の情緒と彩りの豊かさを大切にします。また、このことを市民共通の認識の基礎として、景観の向上を実現するまちづくり事業を進めることをわたしたちの責務として自覚します。

市民と行政・河川管理者は、相互のパートナーシップを高め、この地域で培われた繊細な感覚・感性をまちづくりに活かします。また、まちづくりの過程で、さらにその感覚・感性を磨き、深める努力をします。まちづくりの過程で植えた松や柳などの苗木が大きく育ち、このまちに「すがすがしさとうるおい」をもたらす風景を目標に、市民自身がまちづくりの時間を楽しむことができるように取り組みを進めます。